

# 令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館（本館）

教育部長 岩橋平武

| 整理No | 主要事業名        | 3か<br>年実<br>施計<br>画 | 事業の評価・課題 |  | 今後の事業の方向性 |   |
|------|--------------|---------------------|----------|--|-----------|---|
|      |              |                     | 自己<br>評価 | 評価内容   | 方向性       | 内容  |
| 34-1 | 文化財保護事業      | なし                  | B        | <p>文化財専門委員会を定期的を開催し、文化財の保存継承方法や候補物件についての専門的な助言を得るなど、適切な運営を行うことができました。</p> <p>また、地域に点在する文化財の現状を把握し、大池古窯の清掃を始め、高札の更新や新設、文化財カードの配付を行いました。</p> <p>文化財よもやま話は、人数制限・消毒・換気等の徹底により、コロナ禍でも開催可能な手法を取り入れて実施しました。文化財の価値や魅力への理解、愛着は、見て、感じることで育まれるため、コロナ禍でも実施可能な方法で情報を発信し続けていく必要があります。</p>            | 改善<br>推進  | <p>文化財の保護には、市民が半田の歴史・文化に誇りと愛着を持ち、保存継承の必要性について理解してもらうことが重要です。</p> <p>半田の各種文化・文化財について、親しみやすい内容での講座を行うとともに、ホームページを活用した情報発信にも取り組んでいます。</p> <p>また、引き続き有形・無形文化財および伝統文化、民俗芸能の保存継承を担う団体への補助をしていくことで、半田の文化を保護していきます。</p> |
| 34-2 | 旧中埜家住宅保存管理事業 | なし                  | A        | <p>令和3年度は、大正時代をテーマにした第5回特別公開を始め、演奏会付きの一般公開、市内家政専門学校と協働した刺し子講座、外観を活かした活用等を行いました。公開等活用では、ウィズコロナを意識しながら、内容の拡充を図ることができました。また、感染予防期間中においてもホームページでの情報発信や参加型の外観活用を行い、年度を通じて当住宅の認知度や保護意識の向上を図ることができました。</p> <p>本事業の課題として、当住宅を後世へ継承するためには、今後も適切な保存修理等と建物の保存に配慮した活用を効果的且つ継続的に行う必要があります。</p>      | 改善<br>推進  | <p>今後も重要文化財としての価値を後世に向けて維持するため、建物の保存管理を行っていきます。あわせて、文化財保護の大切さを人々に伝えるため、特別公開を始めとした公開等活用を行い、「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針（令和2年3月策定）」をもとに、保存活用の充実を図っていきます。</p>   |
| 34-3 | 山車ガイドブック作成事業 | あり                  | B        | <p>新型コロナウイルスの収束が見られず、山車の組上げを行わない組が多くあり、当初の予定どおりの撮影を行うことができませんでした。</p> <p>撮影には、山車の組上げ、曳き廻し、方向転換等を山車組関係者に行ってもらうことが必要であり、人手が確保できる祭礼前の組上げ、祭礼後の解体時等限られたタイミングしか撮影の機会がありません。</p> <p>また、祭礼が同じ日程に重なり、組上げ、解体自体も重なることから、撮影の機会が限られることにもなります。天候やコロナ禍のように山車組や市では変えようのない事態が発生すると撮影の機会が無くなってしまいます。</p> | 改善<br>推進  | <p>第9回はんだ山車まつりが令和4年度から令和5年度に延期となったため、山車の撮影を期限ギリギリまで行い、最新の情報を反映させたガイドブックを作成することで、半田の誇る山車文化の発信を行います。</p> <p>また、カメラマンを複数確保するなど急なスケジュール変更にも撮影が可能となるよう準備を行うとともに、次回ガイドブックの作成に向けた、掲載内容、手段等の見直しについて検討を行います。</p>         |

| 整理No | 主要事業名            | 3か<br>年実<br>施計<br>画 | 事業の評価・課題 |  | 今後の事業の方向性 |  |
|------|------------------|---------------------|----------|--|-----------|--|
|      |                  |                     | 自己<br>評価 | 評価内容   | 方向性       | 内容   |
| 34-4 | 旧中埜家住宅保存<br>活用事業 | あり                  | B        | 令和3年度は、旧中埜家住宅のさらなる活用の一つとして外観を活かした活用を行うため、当住宅の歴史を伝えるイラストカーテン及び子ども向けリーフレットのデータ制作を行いました。地域住民に歴史ある建物であることの認知度向上が図られたとともに、子どもから大人まで、当住宅の歴史をわかりやすく伝えることができるようになりました。<br>本事業の課題として、当住宅は、様々な制約により、多人数の受け入れや長期間の公開が困難であり、公開時期が限られますが、地域住民や子どもたちに対して、認知度や関心を高める必要があります。  | 改善<br>推進  | 重要文化財旧中埜家住宅の後世への継承という大きな目的を達成するため、今後も「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針（令和2年3月策定）」をもとに、建物の保存に必要な修理と整備、さらなる活用のために必要な整備を行っていきます。  |
| 34-5 | 文化財保存修理等<br>補助事業 | あり                  | C        | 所有者への過度な負担を軽減し、文化財の適切な保存継承が図られるよう、防犯設備の設置に対する補助を新たに開始しました。<br>その一方で、既存の保存修理補助事業では、所有者と定期的な情報共有を図っていたにも関わらず、コロナ禍で修理が予定どおり進まず、補助申請を取り下げるケースがあったなど十分な支援を行うことができませんでした。<br>文化財の保存修理を請け負える業者の数が限られ、その多くが県外の者であるため、新型コロナウイルス感染症の影響等で移動が制限されると、修理・監理の進捗に大きく影響します。また、他者と修理業者の取り合いも発生し、適切な時期に保存修理ができない可能性があります。 | 改善<br>推進  | コロナ禍でも文化財の保存修理が適切に行われるよう、所有者との連携、情報共有をこれまで以上に強化し、国や県、信頼と実績のある修理業者からの最新かつ有益な情報を得て、これらを所有者に効果的に提供することで、文化財の絶え間のない保存継承に取り組みます。  |
| 34-6 | 博物館一般事務          | なし                  | B        | 新型コロナウイルス感染症対策として講座参加人数を減らしたため、参加人数は一昨年度より減少することになりましたが、「かんたん実験で地震について学ぼう」という講座を新たに開設し、参加者各々が実験を進めながら地震のしくみを学ぶというこれまでとは違った体験をしてもらうことができました。<br>また申し込みを抽選にしたことで、多くの申し込みがありながら参加ができない方が大勢いたので、今後は人数を調整し、効率の良い抽選のしくみに変えていく必要があります。  | 改善<br>推進  | 学芸員の専門分野を活かした講座を続けていながら、従来の内容の見直しや、新たな講座を追加していくことでこれまで博物館に来たことがない方々にも興味関心を持ってもらい、さらなる入館者数の増加に努めます。<br>また、収蔵資料の整理及び調査研究を進め、常設展示の内容を更新し充実させることで、さらに魅力ある博物館づくりを推進します。 |

| 整理No | 主要事業名   | 3か<br>年実<br>施計<br>画 | 事業の評価・課題 |   | 今後の事業の方向性 |  |
|------|---|---------------------|----------|---|-----------|--|
|      |   |                     | 自己<br>評価 | 評価内容  | 方向性       | 内容   |
| 34-7 | 企画展開催事業   | あり                  | B        | <p>企画展「写真で見る半田の自然災害史」は、多くの来館者から、当時の記録写真や関係資料から地域の災害史を知ることができる良い企画だったとの意見を頂戴するなど、大変好評でした。展示準備で多くの写真資料をデータ化して整理・分類したほか、展示を見た複数の学校関係者から出前講座の依頼があるなど、企画展の開催が資料整理や教育普及事業にもつながりました。</p> <p>一方で、何れの展示でも解説パネルやキャプションが難しい・分かりづらいという意見もあり、より分かりやすいものに改善していく必要があります。</p> | 改善<br>推進  | <p>引き続き、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していきます。展示の内容を充実させるとともに、講演会や博物館講座などの関連イベントを充実させることで来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図ります。</p> <p>また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を展示に反映させていきます。</p> |
| 34-8 | 図書館、博物館施設等改修事業  | あり                  | B        | <p>機器の更新により、新型コロナウイルスの注意喚起や、閉館前の事前アナウンス等を自動で実施できるようになり、正確な時刻での案内、聞き取りやすいアナウンスなど市民の利便性の向上が図られただけでなく、設備の修理や動作等を行っていた職員の負担を軽減することもできました。</p> <p>しかしながら、依然として多くの設備の更新が必要な状況となっています。</p>   | 改善<br>推進  | <p>整備した機器等が長期にわたり正常な状態を維持できるよう点検を実施するとともに、従事する職員が、平時、有事を問わず適切に使用できるよう、教育、訓練を定期的に行います。</p> <p>また、負担軽減を図ることができた職員の労力を活用し、施設の更なる改善やサービス向上に取り組みます。</p>   |
| 課等長  | 1次評価（令和3年度の総括評価）  |                     |          |   |           |  |
| B    | <p>相手の対応が必要となる山車ガイドブック作成事業や文化財保存修理等補助事業は、コロナ禍により当初の予定と比べ進まなかったところもあったが、他の事業については、コロナ禍が暫く続くことを想定し事業化したこともあり、概ね予定どおり実施することができた。特に、旧中荏家住宅の公開活用や、「写真で見る半田の自然災害史」を始めとした企画展、「かんたん実験で地震について学ぼう」などの新たな取り組みで行った博物館講座などは、来場者や参加者に制約のあるなかでの実施であったが、従来の方法を見直し、コロナ禍でも対応可能な方法により行ったことで多くの市民に満足いただけたと判断する。</p> |                     |          |   |           |  |
| 部等長  | 2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）  |                     |          |   |           |  |
| B    | <p>令和2年度は、コロナによる臨時休館、体験講座の全面的な中止など、博物館としての活動に大きな制限を加えざるを得ない状況であったが、令和3年度は、博物館に求められている市民のニーズを分析し、コロナ禍においてもできることを可能な限り応えていく方針とした。</p> <p>文化財よもやま話や、博物館体験講座、旧中荏家住宅の公開等、依然として制約のあるなかでの1年であったが、各自の創意工夫により、市民に楽しんでもらえる博物館としての取組みは当初の方針どおり実施できていたと判断する。</p>  |                     |          |   |           |  |